

「HSK 季刊わたぼうし」 第46号

発行者:わたぼうし連絡会
発行日:1998年(平成10年)12月22日 '98 冬号

第46号のテーマ 「みんなの広場 II」

肩書きを はずすと匂う人間味 比呂雪

この機関紙は障害のある人、ない人が自由にそれぞれの考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

《特集 みんなの広場 II》

「石川のひまわり号」

「ひまわり号」を走らせる石川県実行委員会

旅は楽しいものですね。次はあそこへ、その次はここへと想像するだけで楽しくなります。でも、身体に不自由のある人にとって、旅先の階段や狭い通路、使用しにくいトイレは大きな壁となります。「一度で良いから列車に乗ってみたい」「安心して楽しい旅がしたい」という声に答え、みんなが集まり、障害者専用列車(上野~日光間)を走らせたのがひまわり号の始まりです。今から16年前のことです。そして、この運動は全国へ広まっていきました。

石川県でも、13年前より熱い思いを持った仲間が集まり、たくさんの方々のご協力によって、ひまわり号が走っています。

私たち、「ひまわり号を走らせる石川県実行委員会事務局」を紹介させていただきます。障害のある方たちが外に出るきっかけとなるよう、また私たちもたくさんの仲間と出会いたいという思いから、年に1回から2回の旅行を企画しています。

旅に出るときは、あらかじめ事務局員が決めて置いたペアを組んでもらいます。例えば、車椅子の人とボランティアの人といったように。そして、旅先での階段の昇降や車椅子の運転などのお手伝いをしてもらいます。反対に、障害がある人からボランティアの人へは、介助の仕方や声のかけ方など自然と教えてもらうことが出来ます。人と人が接して生まれるすてきなことではないでしょうか!!

旅先での出会いもあります。ほんの一瞬の係わりですが、車椅子の誘導を一生懸命になってしてくれる駅員さん、車椅子の準備をしてくれるバスの運転手さん、「気をつけて」と声をかけてくれる通行人、ちょっとしたことが嬉しく感じます。同時に、みんながこんな気持ちを持てたらひまわり号はいらないと思いました。

世間では「バリアフリー」という言葉が出回っています。本当に理解してこの言葉を使っている人たちはいるのでしょうか??まだまだ人の心の中にも大きな壁があります。でも、本当の「バリアフリー社会」にするための手段を知る機会が少ないですね。ひまわり号を通して、「バリアフリー」を体験し、拾得し、世の中に広めていけたらというのが事務局員みんなの願です。

さて、今年のひまわり号は10月に「東京ディズニーランドと浅草・東京タワーの旅」を予定しています。嬉しいことに申し込みが殺到し、定員が一杯になりました。わたぼうしの読者の皆さんには、来年のひまわり号から参加していただきたいと思います。来年の旅行が決まり次第、皆さんにお伝えできればと思っています。

石川県のひまわり号は、障害のある人もない人も、老若男女を問わず、人間同士が励まし合い、支え合い、高め合っていくことを目指して走り続けています。

5人の兄弟で、5人の親

地域住民・教会牧師

家族を紹介します。一人の妻と長女(大学1)、続いて長男(高1)、次男(中3)、三男(小6)、次女(小4)、の7人家族です。私は父親であり、夫であり、牧師であり、そして家族一人ひとりがそうなのですが、また私が最も大切にしているところですが、神様の前かけがえない一人の人間、神の傑作だと思っています。

ある時5人の子供たちを連れて、ある方のお見舞いに病院を訪問しましたが、エレベーターの中で私たちの会話を聞いた人が私に「まさか5人ともお宅さんの子供さん?」と聞きますので、「どう見えますか?」、「ご冗談でしょう」、「だれか返事してあげて」と子供たちに言いますと、「もうわかりました。いいですね」こんな返答でした。そして医師は「先生は金持ちやね。一人最低3億円で、あわせて15億円の財産持ちですよ。こんな宝はないですよ。」と。

実際、私はそう思っています。子育て論はその方面から本質論まで含め、著書等は限りがない。そして子供ひとり、加えてその子をとりまく環境はみんな違う。極端ないい方をすれば世界中の子供一人ひとは、その子も環境もみんな違う。ひとりも同じ子はいない。逆にいえば違って当然といえます。だからあの方法がこれに合うとは必ずしも言い切れない。だからこんなに著書等が溢れているのかもしれませんが。ある子育て講演会でのお母さんの講師への質問、「私には2人の子どもがあります。同じ環境で同じように育てたつもりですが、何故、こんなに違ってしまうのでしょうか?」講師はこう答えられました。「長男と次男ですか、それだけでも違うのです。むしろ同じように育ててはいけないのです。それぞれに応じた育て方があるのです。」会衆はその一言で目が覚められたのでした。見るべきものが見えていなかったのです。

地域や時代がどんなに変わっても、環境を超えて変わらないものがあると思います。私も子育て真っ最中です。子供たちから見て決して満点とは言えないでしょうし、その評価は後でつけてくれるでしょう。これだけは言えます。この子供たちによって私自身が父親を学ばさせられている。むしろ「ありがとう」と言いたい。この5人に出会わなかったら、私は父親の素晴らしさを体験することはなかったし、これからもっと学んでいくのであろう。有り難い、それは決していいことづくめではなかったし、これからもそうであろう。うちの子供たちは見事に個性的、個性派だ。「有り難い」とは「難」が「有る」との合成語と言われるが、いろいろ子育てには困難がつきもの、でもそこから親も子も新しいものを見せてもらったともいえる。振り返ってみると本当に有り難い。子供たちに感謝したい。

子供はごまかせない。親も神の前には欠けだらけである。言葉より態度で、自分自身がひとりの人間として神を畏れ、神に感謝すること、善悪のけじめでもあるこの信仰の視線は失ってはいけないと思っている。子供たちは神の賜物であり一人ひとり違って当然。そんな姿勢が、神からゆだねられた子に対しても、どうあるべきか見せて下さるとともに、それをさせる力(愛)をもたらせて下さる。

自分の中の自分のために

地域住民・肢体障害

去年はテレビ局に追っかけ回されて、自分自身大変忙しい一年間でした。テレビ局の人も「川上さんって、強いですね」などと言うもので、どこが強いのか、どこが弱いのか、自分でも自分を理解できなくなるときがあります。ただ、これだけは言えるかも知れません。「他人に負けても、自分自身には負けたくない」といつでも自分自身に言いきかせてきたことが良かったのかも知れません。強い自分と弱い自分、障害を持って年齢を重ねてくると、それが自分は強く外に出てくる性格かも知れませんね。健康な人よりも、障害を持った人々の方が精神的に強いと思いますね。

日本の国は今まで、世界で第二の経済大国になっていましたが、これからの日本国は確実に世界で第一の高齢化大国になると思いますよ。昔の言葉に「山高ければ谷深し」と言います。いよいよ日本国の経済大国の「つけ」という谷が訪れるかも知れません。いや、もうすでに始まっているかも知れませんね?何もかも遅くて甘い日本の国、小手先だけの福祉政策と甘い言葉、政治家が悪いのか、それともそんな政治家を選んだ国民が悪いのか、皆さんの答えはどちらでしょうか。どちらにしても、谷は深くなる一方のように私には見えるのですが……。

これからの日本国に期待が出来ないと私自身思います。今よりもまだまだあらゆる面で辛く、苦しい時代になるのではないかと考えています。私、個人の結論から言うと、自分自身のことは自分で考えながら、努力し、決断と実行して行くしか方法がないのではないのかも知れません。自分の中の自分を強くし、自分を見つめて、自分の残りの人生を楽しく生きていけばいいと思います。

口先だけの日本国、その場限りの考えをする日本の国、もっともっと大きく、広い心で日本国を見つめる必要があるのではないのでしょうか。

ハート・サイド・ネットワークの設立の経緯と平成10年度事業計画

ハート・サイド・ネットワーク

93年(平成5年)夏頃から、金沢市を中心に障害を持つ人たちとそうでない人たち数人が集まって、「もう少し、街を住みやすくできないだろうか」「暮らしやすくないだろうか」ということを話し合いました。自分たちが考えている社会を創り出すための方法も同時に話し合われました。この街づくりを進めるために何か行動を起こそうということになり、組織作りと人集めが始まりました。翌年の5月、100名以上の人が集まり、「福祉はゴールなき、マラソンレース」を合い言葉にハートサイドが発足しました。当初から、事業計画は盛りだくさんに建てていましたが、実際は会員同士の親睦を深める集まりや、年に数回の街づくり点検活動を実施するぐらいしか、動けませんでした。事務所もなく、専従の職員もない状況では仕方のないことでした。そうこうしているうちに、会員も減少していき、昨年夏には事務局長と副会長の間で、「この団体もこれまでか」という話し合いもされていました。この衰退を何とかするには何か具体的な事業を展開しようと思い、

皆が一番困っている移動のサービスを開始しようと、リフト車の獲得に動き出しました。幸い、24時間テレビから車を寄贈していただくことになり、昨年暮れより、会の活性化を具体的に模索しだしました。設立当初から、目標にあがっていた、働く場や事務所も開設も実現させようと、場所探しをはじめ、今の事務所を開設しました。

平成10年度事業計画

	事業名	実施日程	目的
1.	バリアフリーフェスタ	4月	啓発と会員交流
2.	出会い'98(ボランティア入門講座)	毎月	啓発と会員獲得
3.	街づくり探検隊	5. 10月末	啓発と会員獲得
4.	バーベキュー	8月	会員交流
5.	機関紙の発行	通年	啓発と情報提供
6.	障害者活動スポーツの普及活動	通年	交流・社会参加
7.	ロータスクーポン・書き損じ葉書の収集	通年	運営費捻出のための事業
8.	外出・生活応援事業	通年	当団体の基本事業
9.	ハートフル・キャブ運行事業	通年	社会的弱者の移動を支援
10.	ネットワーク作り	通年	啓発・他団体交流
11.	ガイドマップ作成	通年	社会参加
12.	ピア・カウンセリング	通年	自立・社会参加
13.	公共・淳子右京・民間施設等・点検評価	通年	バリアフリー社会を活動 障害者当事者がチェック

HSK季刊わたぼうしのホームページを開設

11月1日より「HSK季刊わたぼうし」のインターネットのホームページを開設しました。紙面とはひと味違う「HSK季刊わたぼうし」を見ることが出来ます。また、「HSK季刊わたぼうし」からいろいろな福祉情報のホームページを見られるようになっています。

主な「HSK季刊わたぼうし」からのリンクページ」

富山生きる場センター、NHKボランティアネット、奈良たんぽぽの家
つくしのコンサート、IBMの障害者情報「こころのWEB」など。

旧サーバーのページは削除されましたので、現在の新アドレスを掲載しておきます。

<http://jiritsusien.com/>

(2021年5月現在)

知っているのと役に立つ在宅福祉の知識

皆さんはここに掲載されていることは、既にご存じだと思います。しかし、年々変わり行く制度の細かな部分をもう一度、再確認していただければ幸いです。

(1)補装具交付

身体的欠損や機能障害を補い、日常生活や職業活動を容易にするために必要な用具(補装具)を交付、修理します。

申請窓口は市町村福祉課。18歳未満の児童については市在住の方は市役所、町村在住の方は保健所が窓口となります。世帯の所得に応じて一部負担があります。

障害部位区分	補装具の種別
肢 体 障 害	義手、義足、装具、座位保持装置、車椅子、電動車いす、歩行器、歩行補助杖、頭部保護帽
聴 覚 障 害	補聴器
視 覚 障 害	眼鏡、義眼、点字器、盲人用安全杖、コンタクトレンズ
音声言語障害	人口喉頭
内 部 障 害	収尿器、ストマ用装具

(2)日常生活用具交付

在宅重度障害児・者の日常生活を容易にするため用具を給付または貸与します。

ただし、貸与は所得税非課税世帯に限られます。また、世帯の所得に応じて一部負担があります。申請窓口は市町村福祉担当課

区 分	種 別	障 害 程 度
日常起居動作に 支障のある方	浴槽、湯沸かし器、便器(手すりも付けられます。) 入浴担架、体位変換器、移動用リフト、特殊寝台、 電動ケアマット	下肢又は体幹の 1,2級
	特殊尿器、特殊マット (常時介護を要する方に限ります。)	特殊マットの児 童については1, 2級。下肢又は 体幹の1級

区 分	種 別	障 害 程 度
日常起居動	★特殊便器(ペタルで温水温風を出しうるもの) ★電動歯ブラシ	上肢1,2級
	※重度障害者用意志伝達装置 (言語機能を喪失した人に限ります)	両下肢機能の全 廃
	入浴補助用具 (入浴に介助を必要とする方)	下肢又は体幹機 能障害
	歩行支援用具 (家庭内の移動等において介助を必要とするもの)	平衡機能または 下肢もしくは体 幹機能障害
言葉が不自由で 字の書けない方	電動タイプライター(児童は上肢の1,2級) ワードプロセッサ	2級又は言語と 上肢で複合1,2 級。
	携帯用会話補助装置 (音声・発語に著しい障害を有する方)	言語機能障害又 は肢体不自由
耳の不自由な方	(聴覚障害者のみの世帯及びこれに準ずる世帯に限り ます) 聴覚障害者用通信装置 (音声・発語に著しい障害のある方を含む) 文字放送デコーダー	聴覚障害2級

原稿の募集をします。

・私の外出体験 あなたはどのようにして外出なさっていますか。バス、タクシー、電動車いすなど、あなたの外出の時の工夫、体験談を募集します。

また、こんなお店、喫茶店でサービスを受けたとか、よい気持ちをしなかったなど……。
・教育とは何か？ 最近の中学生によるナイフによる殺傷事件、高校の卒業式、入学式のボイコットなど教育に関する話題が連日報道されていますが、その背景には何があるのでしょうか。皆様のご意見をお聞かせ下さい。

編集後記

読者の皆さんお久しぶりですが、お元気でしょうか。

「HSK季刊わたぼうし」も、インターネットの時代を迎え、11月1日よりホームページを公開しております。内容はまだ未熟ですが、徐々に豊にしていこうと思っています。皆さんのアクセスをお待ちしています。

「HSK季刊わたぼうし」の紙面を徐々に有意義な内容に変えていきたいと思っています。皆様のご意見をお待ちしております。